

ちよつと気に
なるトピックス

HOW ARE YOU? KYOWA'S COFFEE

素敵あなたに。

No. 1

1983年10月1日発行・編集/共和食品株式会社本社企画室 京都市下京区高辻通高倉東入泉正寺町465-9 TEL075(361)9431

政治 庶民は ロマンズがお好き

アキノ氏暗殺以後

八月二十一日、フリーピンのマリナ空港で、「アキノ」氏が暗殺されてから一カ月以上。白昼堂々の、しかも軍部によるらしい劇的な暗殺事件をとりまいて、いまだにさまざま噂が流れています。事件の尾は意外に長く、マルコス政権は大揺れ。暗殺直後からの最も大きな変化は一時は仕掛人といわれた、マルコス大統領が急速に名誉を回復したことでしよう。死刑の宣告を受けて亡命していたアキノ氏の「死を予感した」帰国。これは、レーガン大統領のフリーピン訪問にそなえて、両者の関係正常化をはかるためのもので、つまり米国のイメージをよくするためという事です。マルコス大統領がアキノ氏を暗殺するはずがないということ。ここで浮かんだのが、女帝イメルダ、(マルコス大統領夫人)の野望説。夫人は五十三歳で、名家の出身、かつてミス・マニラに選ばれた美貌の持ち主です。内気な家庭夫人だった彼女が政治の表舞台に出たから、辣腕ぶりは、かつてのキッシンジャーをつくりといわれるほど。つまり今度の事件でマルコス退陣が早まれば、彼女に大統領の座がころがり込むというわけです。ところが、庶民の

間には診説登場。イメルダとアキノ氏のラブロマンス説で、イメルダが本当に愛していたのはマルコスではなくて、アキノ氏だったという噂が流れ、ここでは彼女、愛する人に死なれた悲劇のヒロインということに。かつてのケネディとモンローの恋人説と同じく、庶民の間ではどうも暗殺と恋愛を結びつけたがるようです。どこか日本のジャーナリズムと似ていますね。

文学 女流作家大活躍。

「生きて行く私」上・下

宇野千代/毎日新聞社

宇野千代、八十五歳。奔放な恋に生き小説を書き、きものデザイナーとして活躍。これまでに十三軒の家を建て、現代は悠悠自適の生活を送っているスーパーおばあさん。「生きて行く私」は、彼女の自伝大河エッセーです。懸賞小説で一位になり、夫を残して北海道から上京。そのまま、作家・尾崎士郎と同棲、梶井基次郎との噂、画家・東郷青児と出会ったその日からの同棲、そして結婚。再び、別の男性との恋……「泥棒と人殺しのほかは何でもした」という彼女の痛快エッセー。現代の翔んでる女性などには、およびもつかないスケールの大きさで、あつという間に読みすすむ、この秋の好書

「二つの祖国」上・中

山崎豊子/新潮社

山崎豊子といえば、「白い巨塔」や「サンダカン八番娼館」で知られる社会派作家。「二つの祖国」は第二次世界大戦下の日系アメリカ人たちの凄惨な運命を描く大長編。来年のNHK大河ドラマで、「山河燃ゆ」というタイトルで放映されます。大河ドラマで昭和が舞台となるのははじめてのこと、大きな話題になっています。この秋ぜひ読んでおきたい一冊といえるでしょう。

コーヒー
ブレイク

エスプレッソ
はいかが。



秋だから、ちよつと濃い目。静かな夜のコーヒータイムには、デミタスカップでエスプレッソを。エスプレッソはイタリア式の濃いコーヒー。キョーワーズのハイロースト(深炒り)、カフェ・オレ用の青缶を使って、エスプレッソ・マシンでたればOK。エスプレッソ・マシンの使い方は、売場でお気軽におたずねください。秋だから、少しリッチに、コーヒータイムもおしゃれしましょう。